

A. 研究目的

近年、働き方改革による労働者の働き方の多様化や、高齢労働者の増加、急速な技術革新の進展など、事業場を取り巻く環境は大きく変化している。令和2年3月に改正された「事業場における労働者の健康保持増進のための指針（THP 指針）」では、労働者の健康の保持増進のための具体的措置として、運動指導、メンタルヘルスケア、栄養指導、保健指導のほかに口腔保健指導が明記された¹⁾。しかし、現在までのところ、職域における歯科保健指導に関する報告事例は必ずしも多いとは言えない。

従来、労働者は退職前後の年齢で、口腔の健康状態の悪化が顕在化することが多いと言われてきた²⁾。今後、定年の延長や撤廃により、高齢労働者のさらなる増加が見込まれている³⁾ことから、在職中に口腔の健康状態が悪化する労働者が増えることが懸念される。そのため、ほかの生活習慣病と同様に、職域においても労働者の口腔の健康保持増進対策を継続的かつ計画的に考えていく必要がある。

本研究では、職域における歯科保健指導を継続して実施している企業の協力を得て、職域における歯科保健指導に関する質問紙調査を行った。それらのデータを元に、受診者が歯科医師や歯科衛生士から受けた歯科保健指導の具体的な内容や、受診者が歯科健診・歯科保健指導を受けるときに重要であると考えている内容等について明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

本研究で質問紙調査を依頼した企業は、

日本標準産業分類⁴⁾の大分類F（電気・ガス・熱供給・水道業）に該当している。定期健康診断の実施時に合わせて、歯科健診・歯科保健指導を実施している。歯科健診・歯科保健指導の受診希望者は、歯科医師および歯科衛生士による個別の歯科保健指導を2年ごとに受けることができる。

本研究では2023年10月～11月にかけて、定期健康診断の実施時に合わせて歯科健診・歯科保健指導を受けた204名に対して質問紙調査への協力を依頼し、200名から回答を得た（回答率98.0%）。質問紙の内容は年齢や性別のほか、歯科医師や歯科衛生士から受けた歯科保健指導の内容や、受診者が歯科健診・歯科保健指導を受けるときに重要であると考えている内容などであった。質問紙を別紙1に示す。本研究の実施に先立ち、東京歯科大学倫理審査委員会の承認を得た。

C. 結果

1. 受診者の属性

受診者の平均年齢は43.7±10.7歳であり、男性の割合が8割を超えていた（男性81.5%、女性17.0%、不明1.5%）。また、主に社内で業務を行う内勤だけの勤務は160名（80.0%）、主に社外に出て業務を行う外勤だけの勤務は29名（14.5%）、内勤・外勤ともに行っていると回答したのは9名（4.5%）であり、多くが内勤だけの業務を行っていた。無回答は2名（1.0%）であった（別紙2、表1）。

2. この歯科健診・歯科保健指導を受けた回数および時間

この歯科健診・歯科保健指導を受けた回数については、①初めてが49名(24.5%)、②2~3回が40名(20.0%)、③4~5回が38名(19.9%)、④5~9回が24名(12.0%)、⑤10回以上が47名(23.5%)、無回答2名(1.0%)であった(別紙2、表2)。

また、歯科健診・歯科保健指導を受けた時間は平均17.7±10.6分であり、最長40分、最短8分という回答が見られた(無回答1名)。

3. 今回、歯科医師・歯科衛生士からはどのような歯科保健指導があったか

今回の歯科保健指導の内容を分析した結果、歯科医師からの歯科保健指導は「う蝕や歯周病、口腔清掃状態の現状」や「歯ぎしり、くいしばりの指摘」、「禁煙指導」、「定期歯科受診の勧め」、「マウスピースの利用」等、受診者の口腔内の現状とその対処方法に関するアドバイスが多かった(別紙2、表3)。また、歯科衛生士からは「歯ブラシの当て方など、歯磨きの具体的な方法」、「歯間ブラシやデンタルフロスによる歯間清掃の方法」など、歯科医師から指摘された内容に対する具体的な解決方法に関する指導が多く見られていた(別紙2、表4)。

4. 今回の歯科健診・歯科保健指導で、最も参考になった内容・ほかに聞いたかった内容

今回の歯科健診・歯科保健指導で最も参考になった内容については、歯科健診時に歯科医師からの指摘を受けていて、歯科保健指導時に歯科衛生士から具体的に口腔清

掃指導を受けた内容が多かった。内容ごとにカテゴリ分けすると、「かみしめ・くいしばり」、「歯周病の状態と口腔清掃方法」、「歯石の除去・定期歯科受診の重要性」、「口腔清掃の手技と個別の対応方法」、「歯間清掃」、「その他」に分類することができた(別紙2、表5)。

また、ほかに聞いたかった内容については「特になし」や「なし」という記載や空欄がほとんどであったが、別紙2の表6に示すように「口臭について」、「歯周病予防について、どういう食べ物・飲み物がプラークになりやすいか」、「歯に関係する食生活等」等の意見があげられていた。

5. 歯科健診・歯科保健指導を受けるときに、重要だと考えていること

受診者が歯科健診・歯科保健指導を受けるときに重要であると考えている内容は、「歯や口の病気の有無がわかること」(161名、80.5%)、「歯や口の病気の予防方法を教えてもらえること」(136名、68.0%)、「自分の歯や口の病気のなりやすさがわかること」(57名、28.5%)、「生活習慣に関するアドバイスがもらえること」(42名、21.0%)、「全身の病気と歯や口の病気の関連性を教えてもらえること」(21名、10.5%)の順であった(別紙2、表7)。

6. その他、受診者が気づいた点

その他に受診者が気づいた点として、「社内なので安心感がある」、「自分ではくいしばりや歯の削れを認識していなかった」、「前回の健診結果を踏まえた健診・指導であり、継続的な健診を続けたいと感じた」、「丁寧に対応して頂き良かった」、「歯

科医の先生も衛生士さんも両方ともすごく話を聞いてくれて、親身にアドバイスをくれ、とても良い方だった。来年以降も同じ先生と衛生士さんに診てもらいたい。」などの意見があげられていた（別紙 2, 表 8）。

7. 受診者が気になっている歯や口の症状

受診者が気になっている歯や口の症状を選択肢の中から選んでもらったところ、回答の多いものから「歯ぐきから血が出る」（64名、32.0%）、「歯にものがよくはさまる」（57名、27.5%）、「口臭がする」、「歯が変色している」（それぞれ32名、16.0%）、「歯がしみる（瞬間的に痛みを感じる）ことがある」、「口が乾燥する」（それぞれ29名、14.5%）の順であった（別紙 2, 表 9）。一人平均の口腔の自覚症状を算出したところ、 1.7 ± 1.5 項目に該当があり、また、気になっている症状が全くない者は46名（23.0%）であった。

D. 考察

1. 本歯科健診・歯科保健指導の実施について

職域における歯科保健指導は、事業場の実情に合わせて、さまざまな方法で実施されている⁵⁾。本研究では THP 指針に基づき、職域における歯科健診・歯科保健指導を各受診者に対して個別に実施している事例について、分析を行った。

質問紙調査の結果から、歯科健診・歯科保健指導を個別に行うことの利点は、歯科健診を通じて受診者が自分自身の個別の問題点について把握することができ、その後の歯科保健指導で問題点を解決する方法や

手段を直ちに相談できること等が考えられる。

職域における歯科健診・歯科保健指導は法定ではなく実施されている事業であるため、初めて受診する者にとっては受診までのハードルが高い場合がしばしば見受けられる。しかし、本事例の場合、歯科健診・歯科保健指導を初めて受診する者の割合が受診者全体の 24.5% を占めており、歯科健診・歯科保健指導への導入がうまく行われていることが考えられた。実際にこの歯科健診・歯科保健指導に従事している歯科医師に確認したところ、入社してからの研修時や定期健康診断受診時の問診票記入時などにも、歯科健診・歯科保健指導の受診に関して説明を受ける機会があるとのことであった。

また、この歯科健診・歯科保健指導を 10 回以上受診している者の割合も受診者全体の 23.5% と高かった。今回の質問紙調査の「その他、気づいた点」には、「社内なので安心感がある」、「前回の健診結果を踏まえた健診・指導であり、継続的な健診を続けたいと感じた」、「丁寧に対応して頂き良かった」等の意見があげられており（表 8）、この歯科健診・歯科保健指導事業が受診者に受け入れられ、支持されている方法であることが考えられた。

また、歯科健診・歯科保健指導を受けた時間は平均 17.7 分、最長 40 分、最短 8 分という回答であったが、定期健康診断の流れの中で十分に実施することが可能であった。

2. 歯科医師・歯科衛生士からの歯科保健指導について

歯科医師からの歯科保健指導は、歯科健診時に口腔内の状態を診た上で「う蝕や歯周病、口腔清掃状態の現状」や「歯ぎしり、くいしばりの指摘」等の受診者の個別の問題点を指摘して口腔疾患のリスクに対する気づきを促し、生活習慣や習癖への対処行動として「定期歯科受診の勧め」、「マウスピースの利用」、「禁煙指導」等のアドバイスを行う役割を担っていることが考えられた。

つぎに歯科衛生士からの歯科保健指導は、「定期健診の受診」や「マウスピースの利用」等、歯科健診時に歯科医師に指摘された問題点への対処行動を受診者に伝えつつ、さらに「歯ブラシの当て方など、歯磨きの具体的な方法」、「歯間ブラシやデンタルフロスによる歯間清掃の方法」のように、受診者に合わせた口腔清掃指導を実施して、受診者とともに具体的な問題点の解決方法を考える役割を担っていることがわかった。

3. 歯科健診・歯科保健指導で最も参考になった内容

受診者側の立場から、歯科健診・歯科保健指導を受けて最も参考になった内容は、歯科健診時に歯科医師からの指摘を受け、歯科保健指導時に歯科衛生士から具体的に口腔清掃指導を受けた内容が多くあげられており、歯科健診・歯科保健指導実施時において、受診者の個別のニーズに歯科医師・歯科衛生士が十分に対応できていた可能性が考えられた。

「かみしめ・くいしばり」については受診者自身が意識していない場合も多かったが、近年は PC やスマホ操作などの VDT (Visual Display Terminals) 作業⁶⁾ 中の

TCH (Tooth Contact Habit；歯列接触癖)^{7, 8)} が注目されている。それらの知見を「内勤でデスクワークが多い」という受診者の業務特性に合わせて、歯科保健指導にも積極的に取り入れていることが理解できた。

つぎに、口腔清掃に関する歯科保健指導については、「受診者のセルフケア」の部分と「歯科医院で定期受診時に行うプロフェッショナル・ケア」の部分とに明確に分けて指導されていることが理解できた。

たとえば、受診者のセルフケアに関する歯科保健指導は、「歯周病の状態と口腔清掃方法」、「歯間清掃」、「口腔清掃の手技と個別の対応方法」に分類することが可能であった。「歯周病の状態と口腔清掃方法」については、「歯ぐきが下がってきている時の歯みがき注意点」など、歯周病に対してセルフケアで対応できる内容が指導されていた。また、受診者それぞれの口腔内の磨き残しに対しては「口腔清掃の手技と個別の対応方法」を指導することで対応し、歯間ブラシやデンタルフロスを使用していない場合には、「歯間清掃」に関する指導を行っていることが理解できた。

それに対して、「歯石の除去・定期歯科受診の重要性」では、「歯石除去をしていないので歯ぐきが腫れている、定期的に歯科に行くことで歯の健康を保てる」などのように、歯石の沈着はセルフケアだけでは対応が難しく、かかりつけの歯科医院を定期的に受診し、歯石を除去してもらう必要がある (プロフェッショナル・ケア) ことが指導されていた。

上記以外の「その他」に分類できた指導内容を見てみると、「虫歯の兆候」、「親知

らずの対応]、「歯の健康は全身の健康につながる」、「タバコによる害」など、個別の歯科保健指導内容は多岐に及んでおり、歯科保健指導時において、受診者のニーズに柔軟に対応していることが考えられた。そのため、ほかに聞いたかった内容があまりあげられていなかったものと考えられる。

4. 受診者の口腔の自覚症状と歯科健診・歯科保健指導を受けるときに重要視していること

受診者の口腔の自覚症状について、「歯ぐきから血が出る」、「歯にものがよくはさまる」などは歯科保健指導時には良く聞かれる症状であり、受診者の 154 名 (77.0%) に何らかの自覚症状がみられていることがわかった。また、受診者が歯科健診・歯科保健指導を受けるときに重要であると考えている内容は、「歯や口の病気の有無がわかること」(161 名、80.5%)、「歯や口の病気の予防方法を教えてもらえること」(136 名、68.0%) が多かったことから、この歯科健診・歯科保健指導に機会は、受診者の口腔の自覚症状に対する口腔の現状を確認し、歯や口の病気を予防するための機会になっていると考えられた。

しかし、う蝕や歯周病の初期段階では自覚症状が認められない場合も多く、う蝕や歯周病のリスクを早めに発見するための機会として、この歯科健診・歯科保健指導の機会を活用できることを周知することも重要であると考えられた。

E. 結論

質問紙調査の結果から、歯科健診・歯科

保健指導を個別に行うことの利点は、歯科健診を通じて受診者が自分自身の個別の問題点について把握することができ、その後の歯科保健指導で問題点を解決する方法や手段を直ちに相談できること等が考えられた。

この歯科健診・歯科保健指導における具体的な役割分担については、1) 歯科医師からの歯科保健指導は、歯科健診時に口腔内の状態を診た上で口腔疾患のリスクに対する気づきを促し、生活習慣や習癖への対処行動に関するアドバイスを行う役割を担っており、2) 歯科衛生士からの歯科保健指導は、歯科健診時に歯科医師に指摘された問題点への対処行動を受診者に伝えつつ、さらに受診者に合わせた口腔清掃指導を実施して、受診者とともに具体的な問題点の解決方法を考える役割を担っていることがわかった。

また、本研究では初回の受診者でも歯科健診・歯科保健指導を受けやすい環境を整備しており、歯科健診の結果を踏まえた丁寧な歯科保健指導を実施することにより、受診者に支持されるような歯科健診・歯科保健指導を提供していることがわかった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

I. 参考文献

- 1) 厚生労働省. 事業場における労働者の健康保持増進のための指針.

<https://www.mhlw.go.jp/content/000748360.pdf>

(2024年3月20日最終アクセス)

- 2) 長山清子. 「リタイア前にやるべきだった……」後悔トップ20【2】健康 PRESIDENT 2012年11月12日号.

<https://president.jp/articles/-/12332>

(2024年3月20日最終アクセス)

- 3) 内閣府. 令和4年版高齢社会白書(全体版).

<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2022/html/zenbun/index.html>

(2024年3月20日最終アクセス)

- 4) 総務省. 日本標準産業分類(令和5年7月告示).

https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/sangyo/R05index.htm

(2024年3月20日最終アクセス)

- 5) 令和5年度厚生労働科学研究「労働安全衛生総合研究事業」職域での歯科口腔保健を推進するための調査研究. 職場で

の歯と口の健康づくりを進めている事業場の事例集および歯と口の健康づくり事業を進めるための評価指標. 2024年3月発行.

【令和5年度厚生労働科学研究(労働安全衛生総合研究事業)「職域での歯科口腔保健を推進するための調査研究(21JA1005)」. 研究代表者 東京歯科大学 歯科社会保障学上條英之教授)の研究報告書で公開予定】

- 6) 厚生労働省 石川労働局. VDT作業における労働衛生管理のためのガイドライン.

https://jsite.mhlw.go.jp/ishikawa-roudoukyoku/hourei_seido_tetsuzuki/anzen_eisei/hourei_seido/kenkou_taisaku/vdt/vdt02.html

(2024年3月20日最終アクセス)

- 7) 馬場一美. お悩み相談! 教えて先生. 「自覚症状のない口腔トラブル TCHって何ですか?」. 日本歯科医師会 歯と歯磨きを科学するデンタル Web マガジン 朝昼晩.

<https://www.jda.or.jp/asahiruban/vol56/contents/oshiete.html>

(2024年3月20日最終アクセス)

- 8) 神奈川県歯科医師会. 歯のかみしめおよび歯列接触癖(TCH)について. Oral Health Online.

<https://www.dent-kng.or.jp/colum/basic/1671/>

(2024年3月20日最終アクセス)

別紙 1. 歯科健診・歯科保健指導についての質問紙調査

2023年 月 日

年齢 _____ 歳 性別(男・女)

主な業務内容：以下の①内勤、②外勤のどちらかを選び、具体的な業務内容を書いてください。

- ① 内勤 ()
② 外勤 ()

1. この歯科健診・歯科保健指導を受けたのは何回目ですか？

- ① 初めて ②2～3回 ③4～5回 ④5～9回 ⑤10回以上

2. 今回の歯科健診・歯科保健指導を受けた時間はどれくらいでしたか？

()分くらい

3. 今回、歯科医師からはどのような歯科保健指導がありましたか？

()

4. 今回、歯科衛生士からはどのような歯科保健指導がありましたか？

()

5. 今回の歯科健診・歯科保健指導で、最も参考になった内容をあげてください。

()

6. 今回の歯科健診・歯科保健指導で、ほかに聞いたかった内容があれば記載してください。

()

7. 歯科健診・歯科保健指導を受けるときに、どのようなことが重要だと考えていますか？(複数回答可)

- ①歯や口の病気の有無がわかること ②自分の歯や口の病気のなりやすさがわかること
③歯や口の病気の予防方法を教えてもらえること ④生活習慣に関するアドバイスがもらえること
⑤全身の病気と歯や口の病気の関連性を教えてもらえること ⑥その他 ()

8. その他、お気づきの点がありましたら、記載してください。

()

9. 歯や口について次の症状がありますか。該当するものをすべて選んでください(複数回答可)。

- ①歯が痛い ②歯ぐきから血が出る ③歯ぐきが腫れる ④歯茎が痛い
⑤歯がしみる(瞬間的に痛みを感じる)ことがある ⑥歯に不快感がある ⑦歯の冷水痛がある
⑧口を大きく開け閉めした時、アゴの痛みがある ⑨口が乾燥する ⑩口臭がする
⑪口内炎がある ⑫歯にものがよくはさまる ⑬ぐらぐらの歯がある ⑭歯が変色している
⑮飲食後、口の中で酸がこみあげてくることもある。 ⑯その他()

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

別紙 2

表1. 内勤・外勤の割合		
	人数 (名)	(%)
内勤のみ	160	80.0
外勤のみ	29	14.5
内勤・外勤とも	9	4.5
無回答	2	1.0
計	200	100.0

表 2. この歯科健診・歯科保健指導を受けた回数

回数	人数 (名)	(%)
初めて	49	24.5
2～3回	40	20.0
4～5回	38	19.0
5～9回	24	12.0
10回以上	47	23.5
無回答	2	1.0
計	200	100.0

表3. 歯科医師からの歯科保健指導内容（抜粋）	
虫歯、歯垢	
歯周病の治療	
歯周病についてメンテナンスを始めた方が良いと言われた	
定期的なメンテナンスの重要性	
歯周病リスク低減のため減煙・禁煙	
タバコによる粘膜への害と注意すべきところ	
歯と歯の間を効率的にみがく手段	
歯間ブラシ・フロスを使うこと	
気になる歯の状態、歯のみがき方	
現在インプラントの治療中につき、今後このインプラントの清掃が大事なこと	
噛むときに前ではなく奥歯を意識する	
歯のくいしばりをしているようなので意識的に歯と歯の間に隙間を開けるよう指導があった	
歯間および奥歯に若干の汚れ、虫歯になりやすい状態になっている	
親知らずの抜歯の検討	
加齢に伴う注意点として歯・歯ぐきの変化、マウスピース使用、定期検診	
マウスピース着用、歯石除去	

表4. 歯科衛生士からの歯科保健指導内容（抜粋）	
歯石がたまっているので定期的にとった方がよい	
検査結果を定期的に行っている歯科へ伝えるように	
虫歯になりかけがある、歯間しっかりと	
奥歯のみがき方、定期健診の受診	
歯の根っこまでの歯みがき、親知らずの説明	
親知らずの様子を定期的に見る、歯間ブラシとフロスの使用方法	
親知らずの歯みがきについて、フロスの利用	
強い力でみがいているので軽くでOK	
みがき残り（着色あり）の所を教えてください	
ブラッシングの方法、初期の虫歯があること、かみしめに注意すること	
歯周ポケットについて、歯ぐきの所まで歯みがきを行うよう指導があった	
右上奥歯（親知らず）が軽度な虫歯になっているので歯医者で相談するように、また下両方の奥歯の歯周ポケットの清掃に注意する	
歯ぐきの境目について重点的にみがくように指導いただいた、具体的な歯みがきの手順	
歯の状態、みがき方の指導、虫歯になりやすい場所や歯石のたまりやすい場所	
歯ブラシ・フロスの使い方、歯ぎしり・マウスピースについて	
歯間ブラシ・フロスを使うべき、みがき残りあり、虫歯あり	
歯間ブラシの使い方（太さがある）、歯みがき時力をいれすぎない	
歯みがきの仕方（持ち方・力加減）、半年に1回は歯石取り	

表5. 参考になった歯科保健指導の内容

カテゴリー	回答（抜粋）
<p>かみしめ ・くいしばり</p>	<p>普段かみしめていることがあるということ。無意識だったので気をつけようと思った。 歯ブラシの届きづらいところの指導、普段かみしめの懸念があること（自覚がなかった） 無意識に力を入れて噛んでいるので少し力をぬいておくという情報 くいしばりの件は他で指摘されたことがあり、今まで以上に意識して気を付けようと思った</p>
<p>歯周病の状態と 口腔清掃方法</p>	<p>歯周病の状態説明 歯周病が始まっていることに気づけたこと、普段みがいている位置がずれていることに気づけたこと 歯ぐき下がってきている時の歯みがき注意点 歯肉病予防のために歯と歯ぐきの間をみがくよう指導 奥歯歯周ポケットの清掃が不十分であることに気づいた 歯ぐきの出血はしても問題ないが、状態は良くないこと</p>
<p>歯石の除去・定期 歯科受診の重要性</p>	<p>歯石がたまっていることを知れたこと 歯石の定期的な除去、歯間ブラシ・フロスの毎日の使用 歯石除去をしていないので歯ぐきが腫れている、定期的に歯科に行くことで歯の健康を保てる 定期的に歯石を取りに歯科医院に通院することが早期治療につながる 定期的に（3ヶ月に1回）歯科に行っているが日頃の自分でのメンテナンスが大事と認識した 普段からのメンテナンスの大事さ、定期的な診察</p>
<p>口腔清掃の手技と 個別の対応方法</p>	<p>歯ブラシ時の具体的な圧のかけ方 力は特に入れず細かいストロークで歯をみがくこと 汚れがとれるようにと電動歯ブラシを「強」にして使っていたが、歯ぐきには悪影響が出てしまうこと みがき残り箇所のブラッシングの仕方 奥歯のみがき残しの気づき、対処方法 歯の内側のブラッシングの弱い部分を指導いただいた点 詰め物の間や歯間に歯垢があり丁寧にみがく必要がある</p>
<p>歯間清掃</p>	<p>スーパーフロス使用と舌ブラシ、口臭についての説明・指導 歯間ブラシとフロスの使用方法 ブリッジの歯間ブラシ使用 フロスを日常的に使用すること、歯の黄ばみ等の異常がないかの回答 自分に合うのがフロスだとわかった（歯間ブラシだと太すぎる）</p>
<p>その他</p>	<p>歯の状態を詳しく説明を受けた 虫歯の兆候 親知らずの対応 歯の健康は全身の健康につながる タバコによる害（気を付けるところ） 舌の位置の矯正方法について あごの関節の動き（手を当てて動かしてもらいよく分かった）</p>

表6. 歯科保健指導でほかに聞きたかった内容	
口臭	
歯周病について予防法、対策など	
根元が欠ける時の対策	
歯周病予防について、どういう食べ物・飲み物がプラークになりやすいか	
フロスの通し方のコツ	
口臭について	
記録のための言葉が意味がわからないので心配である	
歯に関係する食生活等	
歯みがきの仕方	

表7. 受診者が歯科健診・歯科保健指導を受けるときに重要だと考えていること		(n=200)
	人数(名)	(%)
①歯や口の病気の有無がわかること	161	80.5
②自分の歯や口の病気のなりやすさがわかること	57	28.5
③歯や口の病気の予防方法を教えてもらえること	136	68.0
④生活習慣に関するアドバイスがもらえること	42	21.0
⑤全身の病気と歯や口の病気の関連性を教えてもらえること	21	10.5
⑥その他	0	0.0

表8. その他、気づいた点	
社内なので安心感がある	
自分ではくいしばりや歯の削れを認識していなかった	
前回の健診結果を踏まえた健診・指導であり、継続的な健診を続けたいと感じた	
丁寧に対応して頂き良かった	
歯科医の先生も歯科衛生士さんも両方ともすごく話を聞いてくれて、親身にアドバイスをくれ、とても良い方だった。来年以降も同じ先生と衛生士さんに診てもらいたい。	
とても良い検診だと思う	
すごく丁寧に対応していただいた	

表9. 歯や口について次の症状がありますか (複数回答可) (n=200)

症状	人数 (名)	(%)
①歯が痛い	3	1.5
②歯ぐきから血が出る	64	32.0
③歯ぐきが腫れる	21	10.5
④歯ぐきが痛い	9	4.5
⑤歯がしみる(瞬間的に痛みを感じる)ことがある	29	14.5
⑥歯に不快感がある	4	2.0
⑦歯の冷水痛がある	11	5.5
⑧口を大きく開け閉めした時、アゴの痛みがある	14	7.0
⑨口が乾燥する	29	14.5
⑩口臭がする	32	16.0
⑪口内炎がある	14	7.0
⑫歯にもものがよくはさまる	57	28.5
⑬ぐらぐらの歯がある	7	3.5
⑭歯が変色している	32	16.0
⑮飲食後、口の中で酸がこみあげてくることもある	2	1.0
⑯その他	9	4.5